



京都 YWCA

1 2022



古都に咲いて100年

「京都 YWCA 100年の歴史を知る」シリーズ第2回

青少年に寄り添い、共に歩んだ歴史

2023年に京都 YWCA 創立 100 周年を迎えるにあたり、過去の歩みをたどるプログラムをシリーズで開催しています。その第2回は 75 周年誌『希求』に記された時代（1974～1997）を振り返る前半として、当時を知る会員・会友のお話を聞きました。その中で青少年活動に関わった下村泰子さんに寄稿いただきました。

1920 年（大正 9 年）、京都 YWCA 設立準備委員会が、まず立ち上げたのが「少女部」だった。当初から一貫して青少年の存在は大きかったと言える。感受性豊かな 10 代の少女たちに YWCA の基本理念に触れてもらい、開かれた精神で社会に向き合う人になってほしいという願いがそこにあったのだろう。設立時には将来の YWCA の担い手を育てたいという期待も大きかっただろうし、実際、「少女部」を窓口に関年 YWCA に関わることになった会員は多くいた。

青少年活動の足跡

私が初めて YWCA に足を踏み入れたのは 1970 年代前半、中 1 の春だった。その頃は「少女部」が「中高部」となり、男性会友も含んだ中高生の活動の場になっていた。それまで学校と家を行き来するだけだった中学生が、スプリングスクール（国際プログラム）、キャンプ、グループ活動に参加するようになって、年齢も背景も異なるこれまで出会ったことがない人たちと出会い、社会への目が開かれる体験をした。YWCA は自分を育ててくれるもう一つの家族のような存在になった。高校卒業後はリーダー会にも参加し、とうとう職員として青少年活動を担当することとなった。

1981 年、名称は「中高部」から「ティーンズ」に変わり、10 代の働く青年も参加していた。男子メンバー・リーダーの数は女子を凌ぐほど増え、活動の幅が広がった。当時は「管理教育」「校内暴力」の嵐が吹き荒れ、「登校拒否」が注目され始めた時代で、活動も、障がい者施設の訪問、アジアの勉強会、釜ヶ崎訪問・ワークショップ等、自分と社会との繋がりを考えるものが増えた。

学校に行かず、昼間から YWCA の事務所にふらりとやって来て、ひとしきり話をして帰る子もいた。彼らは学校や家庭でのしんどさ、やり場のないイライラを容赦無く職員にもぶつけてくる。事務所では担当者だけでなく職員全員が彼らと向き合ってくれた。毎日、放課後のロビーはティーンズがたむろし、YWCA は彼らの居場所となっていた。大人の会員とも顔馴染みとなり、交流が生まれていた。会館の中に

ティーンズがいない日は珍しかった。

心豊かな教育を求めて

ティーンズ委員会は、彼らを母親のような包容力で受け入れた。委員たちはキャンプや合宿にも参加し、夜遅くまでリーダーたちと活動について話し合うこともあった。公には、親たちの意識改革を願って「共育講座：心豊かな教育を求めて」を開催し（1989 年）、教科書問題や学習指導要領の強化に対する抗議活動（1990 年）も行なった。

青少年活動は常に赤字の会員活動だったが、会員たちは「教育の荒廃とたたかう」「青少年と共に運動を進める」を会全体の具体的課題として位置づけ、物心両面で支え続けた。あの頃の会員・会友の情熱と行動力を思い起こすと、今も身の引き締まる思いがする。

YWCA はこの 100 年間、青少年を取り巻く厳しい社会環境の中で、時代の荒波に抗いながら、その時々課題に向き合ってきた。その足跡は、今も若い女性のための自立援助ホーム「カルーナ」等の事業を通して継承されているだろうと、希望を感じている。

（下村泰子）



ティーンズ合宿（1980 年代の初め頃）

京都 YMCA・京都 YWCA 合同祈禱週集会

「壊れたものからの美しさ」——東九条こども食堂の経験から

11月19日にオンラインと京都YMCAと京都YWCA会場で、在日大韓基督教会京都南部教会牧師の許伯基（ほ・ぺっき）さんをゲストに迎え合同祈禱週集会が開催された。

許さんは東九条こども食堂代表で、2016年に京都南部教会を会場とした東九条こども食堂を開設。以来毎週木曜日に平均参加者90名（スタッフ込み）のこども食堂を250回以上にわたり開催。コロナ禍以降は弁当配布形式で、感染対策などに苦心しながら開催を継続されている。

本集会タイトルの「壊れたものからの美しさ」とは、金継ぎのように破損した陶器を金でつなぎ合わせ、欠ける前の器より美しいものにすること、新たに再び繋ぎ合わせることで良い社会になることを表している。コロナで多くを失いバラバラにされた隣近所、地域社会をつなぎ直すきっかけともなるよう活動を続けておられる。壊れたものより、これから見える美しさをめざし、他者に仕えることに希望があると話された。

京都南部教会では、日韓併合前よりコリア留学生中心のプロジェクトがあった。一時途絶えていたが1976年に再開され、オモニハッキョとして識字学級が地域運動セツルメントの学生を中心に開催されていたが、90年以降、地域

とのつながりが途絶えていた。許さんが京都へ来られ、「神の愛を伝えること、隣人に接せよ」との思いがこども食堂開設につながった。地域の団体に声かけし、毎週の開催が定着した。学生ボランティア団体の協力を得て運営され、地域の共生食堂として、子どもだけでなく多様な人々を受け入れている。客商売ではないので、利用者が帰る際に「ありがとうございました」という言葉は使わず「また来週どうぞ」と言うことにしているスタンスは、共に支え合う共生、共感に通じる。顔見知りとなり何かあった時に繋がれる関係の大切さや、「外国人に住みにくい国は日本人にも住みにくい」など日常



東九条こども食堂の様子
コロナ禍でもお弁当を配布して活動

に追われる中でハッと気づきが多くあった。価値観の違いを乗り越え、働くこと、祈ることを通じて、多様性が力となりこども食堂の継続を願う、と語られた。（青野美佐江）



子どもを真ん中に ～京都YWCA子どもフェスタ2021を開催～



11月21日、深秋の爽やかな陽射しに包まれて、今年も全館をあけて「子どもフェスタ」を開催しました。

本館ロビーでは、「バルーンアート」がお出迎え。プログラムに参加しにくい子がいつもかぶりつきでいます。歩を進めると、年齢問わずあつという間に素敵な作品ができあがる毛糸を用いた「クラフト」、リズムと音でコミュニケーションを楽しむロビン・ロイドさんの「打楽器ワークショップ」、自転車漕ぎを通じて発電を体験する「平和・環境ワークショップ」、好きなように好きなだけ描ける「ビッグアート」のお部屋があります。

サマリア館では、親子ライブラリーによる「おはなしか

い」。絵本カバーバッグというスペシャルなお土産付きです。お買い物でリサイクルを実現！すぐ大きくなる子どものための衣服類を扱う「スリフトショップ」や、会員手作りのお惣菜、京都YWCAが誇るケーキ、韓国出身の保育園の先生お手製のお菓子販売コーナーもありました。

保育園前ではゲームで「あてもの」。保育園ホールでは日頃園や地域子育てステーションで行われている人気の「親と子のリズム遊び」、感染症対策を万全に、いつも大盛り上がる「ライブ」です！

京都YWCAの日頃の活動やつながりを活かした多彩なプログラムを、ボランティアも含め約90名で心と体と頭を使って体感する半日となりました。

人が創り出す音と色。それぞれの在りようは様々ですが、YWCAという会場が生み出す磁場で、個々であることを楽しみながら、子どもを真ん中に、ユースもミドルもシニアもあらゆる違いを超えて一緒にいる。多世代・多文化ふれあいコミュニティづくりに取り組み続けている京都YWCAならではの「子どもフェスタ」でありました。

（親・子育て支援活動委員会）



親と子のリズム遊び
おとな子どもものびのび♪



毎年大盛り上がるライブ♪
感染症対策を万全に、全力で演奏くださいました

 京都 YWCA
 「クリスマスコンサート」

12月4日、京都YWCA「クリスマスコンサート」を末松よしみつさん、西谷玲子さんをお招きして、日本聖公会聖アグネス教会で開催しました。

初めに教会の大岡創司祭からメッセージをいただきました。「世界中で飢えや長時間労働に苦しんでいたり、戦士として搾取されている子どもたちがいる。しかし月1回食べ物を送る活動によって、自分たちが大事にされているという希望をもつことができる。世界で一番遠い国のことを思ってほしいし、同時に頭で考えることと行動の間にはジレンマがあることを考えてほしい。行動に移すことの大切さを改めて感じました。

メッセージの後、コンサートが始まりました。末松よしみつさんの「救い主のもと、クリスマスを迎えるイブという気持ちになって…」という語りから始まり、「夜空にいっぱい星が落ちてきて、モミの木に明かりが、さあ～、カウントダウン 4、3、2、1、どうぞ～」。聖堂内が暗くなると同時に小さなクリスマスツリーに明かりが灯りました。「心の中で隣の方に『メリークリスマス!』を」。サプライズの演出に来場者の笑顔が溢れました。

もう一人のシークレットゲスト、^{かわらたいら}瓦待良さんも加わり、「クリスマスメドレー」では手拍子で、「ドレミの歌」では、身振り手振りで盛り上がりました。アイルランド民謡や世界の音楽を取り入れた曲目が、末松さんのギターとバイオリンとマンドリン、西谷さんのピアノ、瓦さんのギターのアンサンブルで演奏され、魅了されました。アンコールの「きよしこの夜」をマスクをつけたまま全員で小声で歌い、フィナーレ。最後まで心ほのぼのと優しさに包まれ、多くの方から「対面で直に触れることのできたコンサートで楽しかった」「お話も曲も楽しく、心に響く素晴らしいコンサートでした」と、喜びの声をいただきました。

少しおさまってきたコロナ禍の中で、消毒や換気などに細心の注意を払いながら開くことができた心に残るコンサートになりました。

(一色光世)



シリーズ——京都YWCA100年の歩み(6)

「国際交流グループ」とそこから生まれた「にほんご教室洛楽」(1966-1996)

国際交流グループ

1966年、YWCAが取り組む活動、キリスト教精神に則って「一人ひとりが内に秘めた隣人愛を表す窓口」として奉仕委員会が発足した(主な活動は病院訪問・病院でのレクレーション・点訳・止揚学園での奉仕)。委員会は1972年にボランティアスクールを開設、1985年に終了するまで13期実施された。このスクールの殆どの受講者が、奉仕委員や幹部委員になり、その後のYWCA活動の担い手となった。しかしボランティアスクールの参加者が減少したため「福祉講座」に切り替え、よりYWCAらしいボランティアの形を試行錯誤した。1989年の「第19回福祉講座」から「国際交流とボランティア」の講座が誕生した。この講座は1996年の「第26回福祉講座」まで続いた。

1989年、この「国際交流とボランティア」福祉講座から国際交流グループが発足した。その頃、政府は10万人の留学生の受け入れ政策を打ち出し、また中国残留孤児の帰国者などへの支援が必要となった時期だった。まず手掛けたのが「ホストファミリープログラム」であった。アジアの留学生・就学生を対象に日本の家庭をホームビジットするプログラムを作り、30組の交流が始まった。「国際交流パーティー」や「留学生との交流セミナー」、「外国人の

ための暮らしの相談コーナー」などを開催し1995年「外国人のための談話室」を開設した。

にほんご教室洛楽

1994年、国際交流グループの活動を通して留学・就学生の伴侶や、大学や日本語学校で日本語を学べない多くの外国人が不自由な生活をしていることを知り、私は地域に住む外国人が生活していくために必要な日本語を学べる教室を作り、彼らの日本語支援をしたいと思い立ち、京都日本語学校で1年半学んだ。国際交流グループの一員で同学校で学んだ花岡正義さんと日本語学校で友となった池上信子さんとの3人で1995年11月にYWCAの一室を借り、日本語教室を開いた。その後その日本語教室は1996年に



国際交流の活動 浴衣を着る会

京都YWCAの活動の一端としての「にほんご教室洛楽」となり、国際交流グループとその後の国際委員会の中に取り入れられた。

(宮武美知子)

今後のプログラム

◎日本YWCA「カーロふくしま」の活動から福島の今を知る

■日 時：2022年1月28日（金）19:00～21:00
 ■場 所：京都YWCA およびオンライン
 ■参加費：会場・オンライン共に500円

◎出版記念トークイベント×はなしあい
「あっち側の彼女、こっち側の私」

■日 時：2022年1月29日（土）13:00～15:30
 ■場 所：京都YWCA およびオンライン
 ■参加費：1000円
 ■申込み：https://onl.tw/bAhKyza または京都YWCA まで

◎京都YWCA100周年記念

——歴史を振り返るシリーズ・プログラム（3）

75周年誌に記録されたる時代（1974年～1997年）の後半をテーマに

■日 時：2022年2月19日（土）13:30～15:30
 ■場 所：京都YWCA およびオンライン
 ■参加費：無料
 ■申込み：2月15日までに京都YWCA まで電話・メールにて

◎第100回定期会員集会

■日 時：2022年3月5日13:00より
 ■場 所：京都YWCA ミニホールおよびオンライン

「京都YWCA100周年記念募金」
へのご協力をお願い

京都YWCAは2023年に100周年を迎えます。現在、年齢や文化的背景の異なる人々が出会い、協働する「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」事業を推進しています。この歩みをさらに前進させるために、100周年記念募金を実施いたします。ご寄付は以下の目的に充てられます。皆さまのご支援をお願い申し上げます。

- 担い手育成・次世代育成のために
- 保育環境の向上のために
- W・M・ヴォーリズ設計「サマリア館」の補修のために
- 歴史を未来に引き継いでいくために

目標額：1,000万円
 募集期間：2021年4月～2024年3月
 募金額：個人 1口 3,000円
 団体・企業 1口 10,000円



郵便振替 01080-9-1566

加入者名 公益財団法人京都YWCA

京都YWCAへのその他のご寄付の詳細は事務所に問い合わせさせていただくか、ホームページをご覧ください。

http://kyoto.ywca.or.jp/support

サービス付き高齢者向け住宅

「京都YWCAサラーム」入居者募集中

60歳以上の女性を対象に入居者を募集しています。
 詳細は事務所（075-431-0351）までお問い合わせください。

ご協力ありがとうございました

2021年10月1日から11月30日 寄付者一覧(敬称略、順不同)

一般寄付

上村愈巳子、山下智子

各指定寄付

*100周年記念募金

半田淳子、長塩滋子、西村佐記子、
 日月公子、篠田茜、柳原亜木、下村泰子、
 平野裕之、平野富希、勝山久仁子、
 宮武美知子、上田理恵子、森本どう園

*親・子育て支援活動員会

三上啓子、近藤純弘、橘まゆみ

*活動グループ

安永雅代

*居場所委員会

宮武美知子

*多文化共生委員会

田中康司、御前明美、内田匡子、
富田京子

*APT

上村愈巳子、田中順子、飯田奈美子、
 大手理絵、篠田茜、斉藤洋子、
 上原正正

*自立援助ホーム「カルーナ」

伊部恭子、雀部真理、澤井聡子、
永井潤子

*あじさい保育園

上村愈巳子、安藤いづみ

*賛助費

半田淳子、吉田繁、小林聡

税理士法人有田事務所

税金のことでお困りの時は
ご相談ください

京都市上京区武者小路通烏丸西入梅屋町468

URL http://www.aritax.jp

aritax Q検索

で一発です！

☎ 075-451-5178

11・12月／理事会報告

- あじさい保育園：次年度園児募集中（説明会実施）。八瀬野外保育センターヘイキャンブ（10/26）、収穫を祝う会（11/4）、クリスマス会（12/23・24）など実施。
- 12/11：親・子育て支援活動委員会が今年度2回目の「子育ておはなし会」実施。
- 多文化ルーツの子ども学習会：毎週月曜と金曜日に実施している。11/3に多文化子どものお出かけプログラム@KOKOKA（オープンDay）に参加。

- にほんご教室「洛楽」：緊急事態宣言解除後は全クラスが対面授業となった。
- 貸室：緊急事態宣言解除後は通常の利用を再開している。
- 12/11：高齢者住宅サラームの交流会としてクリスマスリースづくりを実施。
- 100周年記念実行委員会：100周年募金促進のためのイベントを企画予定。
- 2021年度定期会員集会（2022/3/5）：内容詳細について検討。

KYOTO YWCA No.566 2022年1月号（1月1日発行）

発行人：上村愈巳子

発行所：公益財団法人京都YWCA

〒602-8019

京都市上京区室町通出水上ル近衛町44

電話：(075)431-0351

FAX：(075)431-0352

e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp

HP：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：(公財)京都YWCA

定価：1部50円

発行：奇数月1日発行